

伊勢管弦楽団のすばらしい仲間、そして同団員でもある妻の佳子に捧ぐ



音楽における永遠をめざして  
—— 音楽のパトグラフィー2 ——

---

目次

## 第1章 音楽における永遠性を求めて

—— 伊勢管弦楽団との2004年以降10年間の歩み —— …… 9

はじめに	9
Ⅰ クラシック音楽とプロ・オーケストラの危機	10
Ⅱ 伊勢管弦楽団の最近のプログラムについて	11
Ⅲ 表現者としてのオーケストラと指揮者	12
Ⅳ 演奏における感動	14
おわりに	15

## 第2章 大作曲家における聴覚障害の受容

—— ベートーヴェン、スメタナ、フォーレの場合 —— …… 17

はじめに	17
Ⅰ ベートーヴェンの場合	17
1. ベートーヴェンの生涯	17
2. ベートーヴェンの作風の変遷と聴覚障害	20
Ⅱ スメタナの場合	22
1. スメタナの生涯	22
2. スメタナの作風の変遷と聴覚障害	25
Ⅲ フォーレの場合	26
1. フォーレの生涯	26
2. フォーレの聴覚障害が作曲にもたらしたもの	28
Ⅳ 聴覚障害のもたらした影響	30

## 第3章 レナード・バーンスタインにおける 中年期危機とその後の音楽活動…………… 34

はじめに	34
Ⅰ バーンスタインの生涯	35
Ⅱ バーンスタインにおける中年期危機	37
1. 中年期危機について	37

2. バーンスタインの場合	38
Ⅲ バーンスタインの音楽創造における中年期以降の変遷	42
1. 作曲活動において	42
2. 指揮活動において	42
おわりに	45

## 第4章 モーツァルトの短調作品にみられる自由…………… 47

はじめに	47
I モーツァルトの短調作品とその特徴	48
II モーツァルトの交響曲第40番ト短調	50
1. 交響曲第40番について	50
2. 曲の分析	51
Ⅲ モーツァルトの生涯にみられた人生観・死生観	53
Ⅳ 後世のモーツァルト観	55
おわりに	56

## 第5章 発達障害児の音楽療法についての一考察 —— 音楽学と発達臨床心理学の関連から —— …………… 58

はじめに	58
I 音楽療法からみた音楽史	58
II 音楽療法からみた音楽の基本要素	60
1. リズム	60
2. 旋律（メロディー）	61
3. 和声（ハーモニー）	61
4. 音組織と調性	62
5. 拍節構造	62
6. テンポ	62
7. 声と楽器	63
Ⅲ 発達臨床心理学の立場からの音楽療法	63
おわりに	64

## 第6章 ベートーヴェン晩年の様式

—— 超越性とスピリチュアリティ —— ..... 67

はじめに 67

I ベートーヴェンの生涯 —— 中年期以降を中心に —— 68

II 晩年の様式について 70

1. カンタービレ的要素と自由化 71

2. 宇宙的響きと宗教性 72

3. ポリフォニーの多用 74

III ベートーヴェン晩年の作品にみられる超越性・宗教性 74

1. 超越性・宗教性とスピリチュアリティ 74

2. ベートーヴェンの晩年作品とスピリチュアリティ 76

おわりに 78

## 第7章 マーラーの交響曲第8番の志向する超越性

—— マズローの至高体験と関連して —— ..... 80

はじめに 80

I マーラーの生涯 —— 交響曲第8番完成までの軌跡 —— 81

II マーラーの交響曲第8番 84

1. 成立の事情 84

2. 曲の分析から 85

III 超越性について 88

1. 音楽における超越性 88

2. 心理臨床における超越性 89

3. マーラーの交響曲第8番の志向する超越性 91

おわりに 93

## 第 8 章 マーラーの交響曲第 9 番の分析

—— 永遠への志向 —— ..... 95

はじめに 95

### I 交響曲第 9 番の成立過程 96

1. 1908 年以降のマーラー 96
2. 死と告別という主題について 98

### II 文化史・音楽史におけるマーラーの交響曲第 9 番 100

1. 20 世紀における交響曲の衰退 100
2. 世界大戦前のオーストリア 101

### III 楽曲分析 102

1. 全体的特徴 102
2. 第 1 楽章 103
3. 第 2 楽章 106
4. 第 3 楽章 106
5. 第 4 楽章 108

### IV 心理臨床に示唆するところ 110

おわりに 112

**付 録**：伊勢管弦楽団定期演奏会曲目（2004 年以降 10 年間のもの）..... 114

**あとがき**..... 115